3 衣服の変化

◆衣服の変遷

人間と共に歩んできた衣服には，世界各地にさまざまな形が現れてきた。社会制度として衣服が定められ，身分や階級，職業を示す記号となっていた。しかし，衣服は，民族の美の表現として，それぞれの時代に生み出され，洗練されていったのである。

現代の洋服の原点であるヨーロッパの衣服は，国王を中心とした貴族の装いとして，ステータスをあらわすものであった。16世紀イギリスに君臨したエリザベスⅠ世は，女王であるために豪華な装いをして威厳を保ったといわれている。女王のドレスは，太鼓型のアンダースカートを用いたものであった。また17世紀フランスのルイ14世は，リボンを多用した装飾的な上着とたっぷりした半ズボンを取り入れた。

■図6　ルイ14世

18世紀には男性の服装は，上着，ベスト，半ズボンの形式が整い，19世紀の紳士服へとつながっていった。女性のドレスは再び大きなスカートとなり，ルイ16世の王妃であるマリー・アントワネットがファッションリーダーであった[8]。

■図7　マリーアントワネット

19世紀には女性は再び大きなスカートとなるが，やがて後ろ腰のみ強調したバッスルスタイルが流行した。世紀末には誇張したスカートは無くなり，体にそったシルエットとなったのである[9]。

日本では推古11年（西暦603年）に，衣服の色で身分をあらわす冠位十二階が制定された。これは階級を徳，仁，礼，信，義，智に大小をつけて十二階とし，それぞれの位の色にあたる冠の色を制定し，衣服もその色とした制度である。その後，衣服の色や文様，素材で階級を表示することが継続されていった。

平安時代には国風文化によって座形式の生活とそれにふさわしい衣服となり，武士の活動的な衣服と対照をなしている。江戸時代には庶民の衣服として小袖が定着し，今日の和服が成立した[10]。

◆現代の衣生活

かつて衣服は男女共通のものが多かったが，やがて社会の制約によって男性と女性の衣服が分かれてきた。このような衣服の男女の違いが女性の権利を狭めているとして，1850年ごろにアメリカでは，女性解放の立場から衣服の改良を唱えたブルーマー・スタイルが生み出された。その結果，衣服の男女差についての考えがしだいに変化してきた。

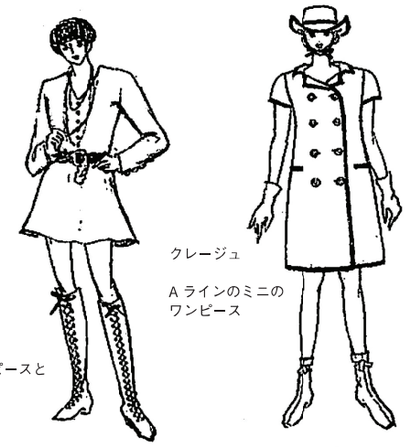
現代では，衣服に民族間の違いが少なくなり，男性の仕事着はほとんど背広服になったといえよう。またカジュアルな衣服として，もともとアメリカの労働着であったTシャツとジーンズが世界的に普及してきた。これは年齢や性別をも超えた共通性のあるスタイルとして定着している。

1960年代にロンドンの若者から始まったミニスカートは，それまでの膝下の長さのスカートを一気に膝上にしたのである。ミニスカートは，軽快で活動的な印象としてやがてパリのデザイナーにも取り入れられ，若者から年齢の高い女性たちにまで取り入れられた[9]。

1970年代には女性がパンタロンを着用するようになり，パンタロンスーツがしだいに定着していき，女性の職業服としても採用されている[11]。

日本では，伝統的な和服が日常的に用いられなくなり，行事や儀礼の時の晴れ着や，夏の浴衣などの限られた機会に着られるものとなった。しかし近年，伝統文化の復活と伝承をめざして，新しい和服の着方を考案したり，和服着用の機会を提案したりする試みがなされるようになった。

■図8　ミニスカート



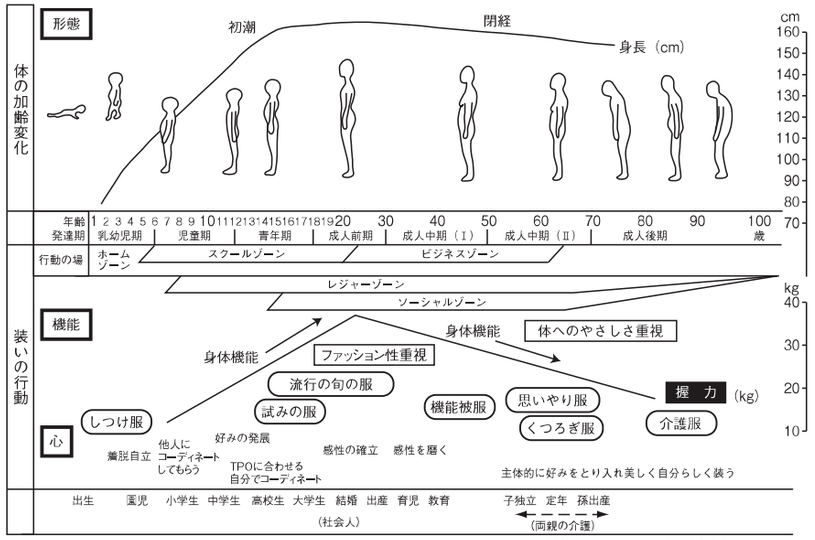
◆ライフステージと衣服

人間は誕生してから一生を終えるまで，さまざまな衣服を着ている。

乳児期には，着脱が便利で，体温の変化を補う衣服を着る。産着はまだ十分に発育していない乳児にとっては適した素材である。やがて手足を動かし，盛んに活動をするようになると，安全で活動的な衣服が望まれる。

幼児期には，初めての集団生活を経験するようになるため，着脱が自分でできるような形を工夫し，体温の調節ができて洗濯がしやすい衣服がよい。飾りが多いものや，締め付けやずり落ちしやすい形はよくないので，見た目のかわいさで選ぶのではなく，十分に機能性と安全性を考えて着用させることが大切である。

■図9　ライフステージと装い



岡田宣子　編著『ビジュアル衣生活論』建帛社より

⑨についてもっと知るための書籍

深井晃子監修「カラー版 世界服飾史」美術出版社

能澤慧子監修「史上最強カラー図解　世界服飾史のすべてがわかる」ナツメ社

⑩についてもっと知るための書籍

池上良太著「図解 日本の装束」新紀元社

丸山伸彦「江戸のきものと衣生活」小学館

⑪についてもっと知るための書籍

HARRIET WORSLEY（著）尾原美保（訳）「100 IDEAS THAT CHANGED FASHION - ファッションを変えた100のアイデア ファッションを変えた100のアイディア」ビー・エヌ・エヌ新社

城一夫（共立女子短期大学名誉教授）「新装改訂版 日本のファッション」青幻舎